

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

真庭市役所庁舎における
木質バイオマスボイラの新設

排出削減事業者名： 真庭市

排出削減事業共同実施者名： 株式会社 トンボ

排出削減事業共同実施者名：一般社団法人真庭観光連盟

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	真庭市
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	真庭市役所
住所	〒719-3292 岡山県真庭市久世 2927-2
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	株式会社トンボ
排出削減事業共同実施者2（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	一般社団法人真庭観光連盟
その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

真庭市役所庁舎における木質バイオマスボイラの新設

2.2 排出削減事業の目的

庁舎内の空調設備用に木質バイオマスボイラ（チップ・ペレット各1基）を導入する。低炭素燃料へのエネルギー転換によって、CO₂排出量を削減する。

一方、共同実施者であるトンボは、購入した国内クレジットをCO₂のカーボンオフセットクレジットとして利用する。

同じく、共同実施者である真庭観光連盟は、購入した国内クレジットを、現在実施しているバイオマスツアーに利用する。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

木質バイオマスはカーボンニュートラルが適用され、CO₂を実質的に排出しないものとみなされるため、ボイラの燃料に化石燃料を利用した場合に比べて、CO₂排出量を大幅に削減する。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

変更なし

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2010年 10月 1日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2016年4月1日 ～ 2017年3月31日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001-A	ボイラーの新設

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

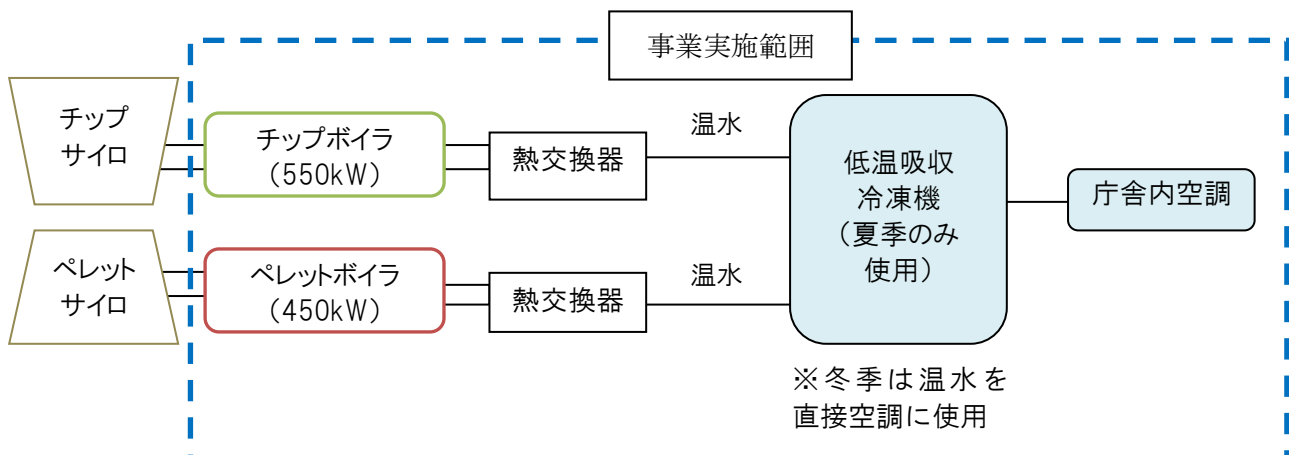
活動量・原単位は採用しない。

4.2.2 活動量の採用根拠

活動量は採用しない。

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

バイオマスボイラー及びボイラーから温水の供給を受ける設備



5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更 ある場合、) 変更理由
F チップ fuel,PJ	事業実施後のチップ使用量	t	172.76	チップ供給業者の請求書	
F ペレット fuel,PJ	事業実施後のペレットの使用量	t	169.10	ペレット供給業者の請求書	
WCF チップ wood,PJ	チップの含水率 (対象期間の加重平均値)	%	25.0	チップ供給業者の提出データ	
HV チップ fuel,PJ	チップの全乾時の単位発熱量	GJ/t	16.744 (低位発熱量)	チップ供給業者の提出データ	
WCF ペレット wood,PJ	ペレットの含水率 (湿量基準)	%	5.8	ペレット供給業者の提出データ	
HV ペレット fuel,PJ	ペレットの単位発熱量	GJ/t	18.1 (到着ベース、低位発熱量)	ペレット供給会社の提出データ	
εチップ PJ	事業実施後のチップボイラ効率	%	85% (低位発熱量)	カタログ値	
εペレット PJ	事業実施後のペレットボイラ効率	%	85% (低位発熱量)	カタログ値	
CF _{fuel,BL}	灯油の単位発熱量あたりの CO2 排出係数	t-CO2/G J	0.0722 (低位発熱量)	J-クレジット制度のデフォルト値	

6 排出削減量の計算

6.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
EM _{PJ}			0.0 (t-CO ₂)

6.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
172.76 (t) 25.0(%) 85 (%) 85.5 (%)	16.744 (GJ/t)	0.0722	155.7
169.10 (t) 85 (%) 85.5 (%)	18.10 (GJ/t)	0.0722	219.7
EM _{BL}			375.4(t-CO ₂)

6.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
			0
LE			0

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM _{BL}	375.4 t-CO ₂
事業実施後排出量 (7.1)	EM _{PJ}	0.0 t-CO ₂
リークージ排出量 (7.3)	LE	0 t-CO ₂
温室効果ガス排出削減量	ER	375 t-CO ₂

7 省エネルギー量

本事業は、再生可能エネルギーを利用するプロジェクトのため、省エネルギー量はない。

8 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (2016年4月1日 ~ 2017年3月31日)			
	単位	エネルギー使用量 (実績)	熱量換算 (GJ) (実績)	原油換算(kL) (実績)
バイオマス利用量	t	341.86 t	5,230.2 GJ	134.9 kL